独立歩兵第六百十三大隊（通称号進撃第二三〇六三部隊）略歴

陸軍少佐　松井政一

年月日	概要
	編成完結の状況
	昭和二十年軍令陸甲第一八号に依り編成下令
	中華民国浙江省杭縣杭州に於て第六五師団、第七〇師団より転入者を基幹とし之に第百三三師団第百一八師団より転入者及南京兵事部より配当せる現地召集者を以て編成す
昭二〇、二、二八	編成完結
	部隊長官氏名　陸軍少佐　松井政一
	行動の概要
三、三三	編成後　錢塘江北岸地区隊（錢塘江北岸地区）北警備隊となり杭州出発
	嘉興縣嘉興を経て安吉縣安吉に到着
同　日	独立歩兵第百三大隊と警備交代
	当時に於ける配備の概要
五、一	光號作戦準備の為主力は呉興縣湖州に移駐該地附近に於て警備任務を続行しつつ築城作業実施

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇、八、一四	終戦の勅語を拝受
八、一五	軍令陸甲第一一六号に依り復員下令
一〇、三	浙江省呉興縣湖州より杭縣杭州へ移駐
一〇、一五	杭州より嘉興縣嘉興へ移駐
三、二、二六	乗船地（上海）集中の為嘉興出発
二六	上海到着
四、二	内地帰還の為部隊の一部上海港出帆
四、五	佐世保港上陸、
四、三	部隊主力上海港出帆
四、七	博多港上陸
	特殊事項
	部隊長　陸軍少佐　松井政一　副官　陸軍中尉　清水猛郎
	書記　陸軍伍長　高山正男　を以て福岡縣二日市支那派遣軍九州連絡所に於て、残務整理を実施
四、八	終る

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

兵力其の他

階級区分 / 区分	入院	生死不明	戦傷	戦傷(傷死)	戦(公)病院	変死	現地隊	内地隊院
将校	二	七	一				七(一)	三七
准士官								二
下士官	五	(二)	八	二(二)	一		二(四)	一九九
兵	一三〇	一(二)	五七	二二(二)	五五(二)	(一)	五(六五)	一〇三〇
計	一三七	(一)	七二	二五(三)	八六(三)	(一)	一四(七〇)	一二五八

備考の（）を附しあるは半島出身者を示す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第六百十四大隊（通称号進撃第二三〇六部隊）

陸軍大尉　早木治文

年月日	概要
	編成完結の状況
	昭和二十年軍令陸甲第一八号に基り編成下令
	中華民国浙江省杭州市に於て第六五師団第七〇師団よりの転入者を基幹としえに第百三三師団第百一八師団及南京兵事部現地召集者を加え編成
昭二〇、三、二八	同市南星橋に於て編成完結
	部隊長宮氏名　陸軍大尉　早木治文
	行動概要
	編成完結後長安に至り独歩百二大隊より警備の任を移譲し、銭南地区隊南警備隊として杭州附近及海杭線鉄道警備
二〇、五、	主力を杭州市に移駐
	杭州警備隊の任務を兼任しつつ教育訓練、築城等を実施し光復決戦を準備す、
八、一五	終戦の大詔を拝受す
九、二〇	中国軍の進駐に伴い警備を交代し杭州市岳坟に集結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

九、三〇　兵器弾薬

一〇、一五　杭州出発嘉興に移動し集中営に入る

三、三、二七　嘉興出発

上海に集中

四、三　陸軍大尉　早木治文以下六二名上海出帆

四、七　博多港上陸

業務終了後、陸軍大尉　田中　實以下六〇名夫々帰還す

同日　陸軍大尉　早木治文、陸軍曹長　山森甲岳は残務整理の為、福岡縣二日市支那派遣軍復員本部に至り残務整理開始す

四、　終了

帰還

特種事項無し

兵力　総員一六九二名　事故総計　一六九二名

内訳

階級区分	除隊	除隊	入院	生死不明	軍属	戦死（傷死）	戦病死	変死
	内地召集解除	現地召集解除						
将校	二九	五（一）	一		一〇	〇	〇	〇
准士官		一	〇	〇	〇	〇	〇	〇
下士官	二四〇	三	一〇	〇	一〇	四	三	〇

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要								
	矢	一一〇〇	七五(八五)	九五	二(二)	五五	五	三八	一
	計	一三七四	八四(六七)	一〇六	三(三)	七五	九	四一	一

備考　括弧内は開墾出身者を示す

3010

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百三十三師団工兵隊

年月日	概要
昭二〇、二、二八	編成日時
	編成場所　中華民国浙江省杭嘉湖沒橋
	編成官理官　第七十師団長　陸軍中将　内田孝行
	編成補任官　第七十師団工兵隊長　陸軍大尉　日下康久
	右編成完結と同時に第百三十三師団長　陸軍中将　野地嘉平の指揮に入る・将校以下九〇七名
	編制
	部隊の編成左の如し
	本部
	第一中隊
	第二中隊
	第三中隊
	基杖小隊
	職員表（完結時）
	本部

3011

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	部隊長　陸軍大尉　高橋利道
	部隊副官　陸軍少尉　福井健造
	部隊附　陸軍少尉　本田勝次
	高級軍医官　陸軍軍医中尉　吉松俊男
	部隊附軍医官　陸軍軍医少尉　橋本恕郎
	部隊附経理官　陸軍経理部見習士官　犬伏博
	部隊獣医官　陸軍獣医部見習士官　出雲一郎
	第一中隊
	中隊長　陸軍中尉　福島吉雄
	中隊附　陸軍兵科見習士官　高原満寿夫
	中隊附　陸軍兵科見習士官　久原正則
	同　同　宗岡弘
	第二中隊
	中隊長　陸軍少尉　上野文夫
	中隊附　陸軍兵科見習士官　塩川三猪
	同　同　浅辺十一
	同　同　副島善三郎

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第三中隊

中隊長　陸軍少尉　萩田　修

中隊附　陸軍兵科見習士官　縱木庄吉

同　同　井川逸治

同　同　九鬼習司

器材小隊

小隊長　陸軍兵科見習士官　舟橋英二

素質、兵器装備

編成完結当初に於ける下士官兵は概ね歩兵より転科者にして而も補充兵役及第二国民兵役にして召集せられたる高齢者多く初年兵と雖も体位概ね劣弱を免れず工兵部隊としての任務遂行には爾後幾多の困難を予想されたり。兵器装備も編成完結時に於ては小銃三百挺、軽機関銃三挺等にして其の他工兵器具に至りては定数の三分の一にも達せざる有様なりしも日を経るに従いて逐次充足せられ終戦時に於ては概ね所望の如く整備せられ居たり、馬匹は総数約八〇頭にして乗馬以外は概ね大陸馬にして体位劣弱使用に堪えざる如きもの多々ありたるも飼育上格別の努力を致したる結果逐次体位の向上を見るに至れり

教育訓練

編成当初の下士官、兵の素質は前項記載の如くにして工兵部隊としての任務遂

3013

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	行上多大の困難を予想せられ居りたるも爾来基礎教育を重ねると共に体位向上については師団の教育要領に基き日夜綜合訓練を実施する等素質の向上に意を払いたる結果見の成果逐次見るべきものあり次で第十三聯光号作戦要項に基き陣地構築を実施する等教育の諸訓練に邁進せる結果終戦時期に於ては工兵部隊としての任務遂行上遺憾なき状態となれり
	配備
自三〇、二、二八	部隊本部及主力は杭州橋に位置し同地域の警備に任じ
至六、一六	
自六、一六	杭州市内に移駐
至	終戦時迄同地区の警備に任ず
五、一二	第一中隊は湖州に派遣せられ第百旅団の指揮下に在りて終戦時迄同地区の警備に任ず
	光號作戦準備
	部隊は七月初旬より終戦時迄第十三聯光號作戦準備要領に基き諸準備諸訓練を実施し特に杭州（第一中隊は湖州）周辺地区の陣地構築に服せり
三〇、八、一五	終戦

3014

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

復員準備及移駐

終戦と同時に師団の命令に基き復員に関する諸準備をなし

一〇、一三　杭州を出発

同日　嘉興（集中地）に移駐す

二、三、二九　集中地出発

四、四　東船

四、一〇　復員

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百三十三師団通信隊　略歴

陸軍大尉　濱堂哲生

年月日	概要
	編成
昭和一〇、二、二八	部隊は昭和二十年軍令陸甲第一八号に基き編成管理官、第七十師団長陸軍中将内田孝行、編成補任官第七十師団通信隊長陸軍大尉吉川義則に依り、中華民国浙江省杭縣杭州に於て編成され、 第百三十三師団長　陸軍中将　野地嘉平の指揮下に入る、 然れども当時の連絡及交通機関の円滑ならざりし為、部隊長以下の集結は編成期日より遥かに遅延し 四月中旬、概ね人員の集結、編成を終る、 部隊編成概要は本部、第一中隊（有線、鳳）、第二中隊（無線）にして将校以下三百三十名なり 編成当時の将校、職員表左の如し 部隊長　陸軍大尉　濱堂哲生 副官　陸軍中尉　向井雅章 隊付主計　陸軍経理部見習士官　長島一夫

3016

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

隊附軍医　陸軍々医中尉　伊藤弘兒
第一中隊長　陸軍中尉　中館美喜雄
第一中隊附　陸軍少尉　野口壽久
同　陸軍兵科見習士官　山下石士
同　同　城下久実
第二中隊長　陸軍中尉　稲川昌也
第二中隊附　陸軍兵科見習士官　石川友一
同　同　二木信臭

以上

下士官以下は第七十師団通信隊を基幹としえに第六十五師団通信隊及南方方面軍要員にして其人員数に於ては定員に充足せるも、其の素質は補充兵、豫備役兵を多数包含し且服務期間も矢にありては在隊一年以内の者約七割を占むる状況にして体力、気力、通信能力等、人的戦力は今次編成の目的が光輝作戦に在りしを想えば誠に寒心すべきものあり

保管馬数は定数四十四頭を充当せられる程度は中なり

又装備兵器の概況は小銃は定数の約三分の一主要器材中、無線機は定数三号甲（丙）無線機二一機に対し三号甲三、三号（丙）二、応用三號九機、九二式電話機定数二四機に対し九二式電話機七機、電鈴式電話機一七機充用せられあるも、物的戦力又十分ならざるものあり就中、無線機の応用器材は周波数帯及電

3017

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	源に於て改造の後漸く使用し得る如き状態なり 略歴及復員 部隊は編成されてより直ちに野戦軍として且又必至の光号作戦の第一線部隊として其の任務を遺憾なく達成し得る必通必勝の強力なる通信隊たらしむべく精神力、内体力の割機的充実、向上、通信能力練成、編成装備の所謂物的能力の充実に邁進すると共に部隊団結の強化に渇す。
三〇、三、	三月中旬当時杭州に駐留しありたる第七十師団は浙江省嘉興に移駐し、当師団は同月中旬を以て第七十師団より浙江省湖州、杭州、金華地区を第六十師団より廣德地区の警備の任を継承す
	部隊は同時第七十師団より前記地区に於ける通信施設を継承し師団内の有無線通信連絡の任務に服すと共に上海を中枢とする防空通信網中、師団警備地区内における通信所を開設す
五、	五月中旬、部隊教育企図に基く第一期を終り検閲を実施す 体力、気力は編成当初に比し遥かに充実せるを認むるも通信能力は一部既修矢を除き未だ作戦通信に任じ能はざるもの大部分にして軍の作戦要求に応ずべく更に練成期間を一ケ月延長し、六月中旬を目途として無線十五分隊を編成可能ならしむる如く猛訓練を続行す。 最も迅速なる通信能力の充実を要求さるると共に一方、軍の光号作戦に応ずる

3018

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

杭州附近の光号作戦陣地の構築、又遷延を許さず部隊は五日中旬より教育中の通信手要員等、所要の者を除き大部兵力を杭州西部遮蔽洞、水楽洞附近に宿営セシメ同地附近、師団陣地構築計画に基く陣地内の有無線通信施設の構築を開始せり。

気候漸く中支の猛暑を迎うるも幹部以下陣地構築即作戦、陣地即墳墓の気概を以て作業材料補給の困難、器材の不足を克服し連日炎熱の下坑道、洞穴内の作業に敢闘す。

五、二〇　左記将校補充さる

第二中隊附　陸軍少尉　柴　崎　又　雄

六、三〇　左記将校補充さる

第一中隊付　陸軍兵科見士官　牧　野　孟　夫

第二中隊付　同　野　村　昌　次

同　同　桜　井　道　恵

八、　八月上旬無線十五分隊の編成を終る、部隊の戦力漸く充実せりと云う可く団結力大いに鞏固なるものあり、一方陣地は既に居住施設をも併せ整成し応時、陣地内に在りて通信に任じ得るに至る。

八、一五　図らざりき停戦の大詔発さる将兵一同悲痛又為す所を知らず陣地帯より引上げ宿営兵舎内に寂寞、後命を待つ

3019

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
八、二〇	左記の通発令せらる
	陸軍中尉　稲川昌也
	同　向井雅章
	同　中館美喜雄
	任陸軍大尉
	陸軍兵科見習士官　石川友一
	同　二木信夫
	同　山下石士
	同　城下久実
	同　牧野孟夫
	同　野村昌次
	同　桜井道恵
	任陸軍少尉
	陸軍経理部見習士官　長島一夫
	任陸軍主計少尉
九、一〇	編成以来の兵舎より師団野戦病院内に移駐す
九、二五	更に杭州北部に移駐す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自 九、一六
至 九、二七

武器、器材、弾薬、車輌等一切の兵器を中国に譲渡す

九、二二
一〇、一五

保管馬四〇頭を中国に譲渡す
杭州に於ける通信要員（野口少尉以下十九名）を残置し、主力は浙江省嘉興に移駐、
未だ中学跡に宿営し、爾後同地に於いて借用兵器を以て杭州―嘉興―嘉興―上海間及杭州嘉興地区内の通信連絡に任ず

一〇、一九

以降中国側の給養を受くるに至る
中国側の要求に基く筧橋飛行場修理作業隊要員将校以下一〇二名派遣の命を受け中館大尉を隊長とする同要員は十一月十日嘉興発作業隊長大久保大尉の指揮下に入り同飛行場の修理を実施す

一一、二五

嘉興に復帰す

一一、一一、二

石川少尉以下三二名は中国側の要求に基く杭州―湖州間道路修理作業隊要員として同作業隊長松井少佐の指揮下に入り嘉興を出発
湖州南方地区の道路修理に任じ

一一、二〇

嘉興に復帰す

一一、一八

上海第一五兵站勤務隊要員野村少尉以下一五名及復学の為学徒出身二木少尉、山下少尉、城下少尉は嘉興を出発上海に集結す

一一、二五

嘉興東方日補充馬廠跡に移駐す

3021

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
三、二六	嘉興出発
三、二七	上海に到着
三、三一	第一六兵站勤務隊に集結宿営す
四、三	稲川大尉以下二八一名光号内地に帰還
	佐世港上陸
	全員満期除隊及召集解除さる
四、二	霞堂大尉以下五九名（残留全員）上海出発
	海防船二二七号に依り内地に帰還
四、五	博多港上陸
	残務整理者、霞堂大尉、主部曹長二名を除き満期除隊及召集解除さる。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百三十三師団輜重隊

陸軍大尉　砂走　巻

年月日	
昭一〇、一一、二八	編成完結の状況 部隊は昭和二〇年軍令陸甲第一八号に基き 編成管理官　第七〇師団長 編成擔当官　第七〇師団輜重隊長に依り 中華民国浙江省杭縣杭州に於て編成 同時に第百三十三師団長陸軍中将野地嘉平の指揮下に入る。然れども当時連絡の文通意の如くならずして、部隊長着任、人員の編成完結たられるは四月中旬なり。 編成 隊別区分　人員　馬 本部　部隊長以下　五七名　三六頭 第一中隊　中隊長以下　三九三名　二七五頭

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要		
	第二中隊	中隊長以下	三九三名
	第三中隊	中隊長以下	三九三名
	計		一二三六名

二七五頭	二七五頭	八五一頭

将校命課一覧表

昭和二十年八月十五日調製
第百三十三師団 輜重隊

将校命課一覧表

属所	年月日命課	職名	年月日官令発官任	種役	種兵	官	氏名	別期	摘要
部		部隊長	19.3.1	現	輜	大尉	砂走孝	33	
部	20.2.28	副官	18.12.1	予	輜	少尉	石塚友康	昭18幹	
部	20.2.28	附	18.12.1	予	輜	少尉	黒山吉明	昭18幹	
部	20.2.28	附	19.7.1	予	輜	少尉	飯田照雄	昭18幹	
部	20.2.27	附	20.4.25	現	輜	見士	志田雅矣		昭19年度第二次保定幹
部	20.2.28	附	18.12.1	予	主	少尉	伊奈重雄	昭18幹	
部	20.3.3	附	19.6.1	予	軍	中尉	佐藤清明	昭19幹	
部	20.2.28	附	18.3.19	予	獣	中尉	黄谷一三郎	昭16将	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭三、三、三

部隊行動の概要及其日時矢力

部隊は編成当初杭州市文理学院跡に在りたるも、本部、第一中隊、第二中隊は第七十師団輜重隊跡に第三中隊は杭州市附置橋に移駐

第一中隊										第二中隊															
20.2.28	20.2.28	20.2.28	20.4.27	20.2.28	20.2.28	20.2.28	20.2.28	20.2.28	20.2.28	20.2.28	20.2.28	20.4.27	20.2.28	20.2.28	20.2.28	20.2.28	20.2.28	20.2.28	20.2.28	20.2.28	20.2.28	20.2.28	20.2.28	20.2.28	20.4.27
中隊長	附	附	附	附	中隊長	附	附	附	附	附	附	附	附	附	中隊長	附	附	附	附	附	附	附	附	附	附
18.9.15	18.12.1	18.12.1	18.12.1	20.4.25	18.9.15	18.12.1	20.1.11	18.12.1	20.4.25	20.3.22	18.12.1	18.12.1	20.2.15	20.4.25	18.9.15	18.12.1	20.1.11	18.12.1	19.4.15	20.2.28	20.2.28	20.2.28	20.2.28	20.2.28	20.4.25
平	平	平	平	現	平	平	平	平	現	予	平	平	現	現	平	平	予	平	予	予	予	予	予	予	予
輜	輜	輜	輜	獄	輜	輜	輜	輜	輜	獄	輜	輜	獄	輜	輜	輜	輜	輜	輜	輜	輜	輜	輜	輜	輜
中尉	少尉	少尉	少尉	見習	見習	少尉	少尉	少尉	見習	少尉	少尉	見士	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	見士
山中一	松川永郎	皿谷伊勢男	松垣尚臣	来山曉	嶋部清二	山内宏	横田正司	安西幹男	津村知足	楢本隼人	兼水行夫	友哲隆憲	鈴木正文	窪内栄	
昭16幹	昭18幹	昭18幹			昭18幹	昭18幹	昭20幹		昭18幹	昭18幹	昭6幹	昭16幹	昭20幹		
			昭19年度第二次保定幹	昭19年度第二次醴陵浮成幹				昭19年度第二次保定幹						昭19年度第二次保東幹	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
五、一七	第一中隊は第百三十三師団歩兵第百旅団に配属され浙江省呉興縣湖州に移駐
六、一五	光號作戦準備のため本部第三中隊（欠一小隊）杭州淨慈寺に移駐
六、二一	第二中隊は扶震橋に移駐輸送に在ず
八、一五	終戦の大詔を拝し同月上旬部（欠第一中隊）は淨慈寺附近に集結し人員整理及中國側へ兵器譲渡業務に服す
一〇、一五	部隊は嘉興縣池樓郷捷員寺に移駐復員準備をなす
二、三、二四	上海集結の命を受け貨車輸送に依り
三、三五	上海第十六兵站勤務隊に集結
三、二六	乗船の報を受く
三、三〇	部隊は一部処理要領に依り 喜部大尉以下九七八名を先発帰還せしめ、
四、二	部隊以下四六名は残務整理後乗船帰還す

乗船人員　主力　部隊長以下四六名　海防艦一三二号
一部　喜部大尉以下九七八名　輸送船　一六号

乗船日時場所　主力　四月二日　上海
一部　三月三〇日　上海

上陸日時場所　主力　四月五日　博多
一部　四月一日　佐世保

3026

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

帰還部隊兵力

区分	将校	准士官	下士官	兵	計
主力	七		一〇	二九	四六
一部	一二	二	七二	八九二	九七八
計	一九	二	八二	九二一	一〇二四

三、一　陸軍大尉山中一以下九七六名　佐世保に於て内地隊部隊召集解除す

四、五　陸軍中尉石塚友康以下四四名　博多に於て内地隊部隊召集解除

四、六　陸軍大尉慕部清二以下二名　二日市に於て内地召集解除

四、一五　陸軍大尉砂走　孝以下二名　二日市に於て内地召集解除

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百三十三師団兵器勤務隊　略歴

陸軍中尉　横張利春

年月日	概要
	編成
	昭和二十年陸令陸甲第一八號により第百三十三師団臨時編成下令せられ第百三十三師団兵器勤務隊編成のため第六十師団より陸軍中尉横張利春以下九五名編成要員として差出し江蘇省吳縣蘇州に於て第六十師団輜重隊長假編成をなし横張中尉以下九五名浙江省杭縣杭州に到り編成將任官たる第七十師団長の指揮下に入り
昭二〇、二、二七	臨時編成を完結す
三、二八	初代隊長　陸軍中尉　横張利春
	部隊行動
	部隊は編成以来杭州に位置し銭南銭北地区警備並戦斗に従事すると共に師団編成当初に於ける繁雑なる兵器業務（輸送補給修理）に任じ師団戦斗力発揮に尽力せり。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

三、二八	待従武官御差遣あらせられ優渥なる聖旨令旨並に御下賜品を下賜せらる
八、一七	大東亜戦争停戦の大命に基き一切の戦斗行動を停止す
九、一〇	支那派遣軍の無條件降伏に伴い
九、一六	一切の兵器及各種軍需品の中国側に対する譲渡を実施す
	駐地移動
	前項の各種譲渡を終了し日本軍集中のため
一〇、一〇	杭州出発
一〇、一三	嘉興縣西塘鎮に移駐
	復員業務に任ず
	転入
二、一三	第百三十三師団兵器部付　陸軍技術中尉　竹森謹介
	同　陸軍技術准尉　黒木忠儀
	第百三十三師団兵器勤務隊付
	駐地移動
三、二二	内地帰還のため嘉善縣西塘鎮出発
	上海に集中す
	内地帰還
三、二九	駆潜艇第四九号にて上海港出帆

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
三、三一	博多港上陸ヤ
	復員
三、三一	復員式終了

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百三十三師団野戦病院　略歴

年月日	概要
	戦役経過及病院行動の概要
	病院編成地
昭三〇、二、二八	病院は中華民国浙江省杭縣杭州市竹斉街第七十師団野戦病院内に於て編成を完結し
	其の編成は駐屯部隊たる該病院より建物、衛生材料、被服物品、陣営具、糧秣、其他の他の継承を受くると共に入員の掌握に努め病院の基礎確立に邁進せり
	在寧没編成人員追及
	寧没第七十師団野戦病院第二半部より病院編成要員として転属せる将校以下五〇名の人員は漸次寧没に位置し該病院の診療を援助せしめつつありしが遂に野戦病院に其の業務を引継ぎ
四、一三	杭州主力に追及し概ね病院編成要員の掌握を完了せり
	病院の開設
四、二〇	人員の掌握、病院所要資材の整備を概ね完了せる病院は其の編成地杭州市竹斉街へ第七十師団野戦病院」に病院を開設し師団隷下各部隊の患者の収療並衛生材料の補給業務に任ずると共に教育訓練に邁進せり

3031

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭三〇、五、	築城作業
五、二五	上旬より杭州市西南貴人峰山腹虎跑寺附近一帯に患者三〇〇名部隊員一五〇名馬匹七〇頭を収容し得る築城作業を開始しえが完成に専念する外より更に在杭甲種軍需品（衛生材料）の陣地集積の為の洞窟掘鑿工事を前記虎跑寺附近に併せ実施しつつありしも
八、一五	停戦の大命に依り中止せり
	中止時における工事の進歩状況は全計画の概ね七〇％なり
八、	上旬師団の乙号作戦実施に伴い病院は主力を以て之に参加せるも途中停戦の大命を拝し
八、一九	急拠杭州に帰還せり
	浮慈寺へ移駐
	病院は停戦の大命を拝してより依然杭州市竹竿街に位置し患者の収療業務及各種資材等の中国側への移譲業務を続行しつつありしも
二、四、	中国側の指令に基き杭州市街西湖南畔浮慈寺内に移駐し同所に病院を開設患者の収療に任せり
	杭州兵站病院内への移駐
三、一、一三	収容患者全員を杭州第百七十一兵站病院に転送すると共に病院を閉鎖し

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

内9 出第3

一、五

経理並に征生雑資材を悉皆中国へ移譲し

前記兵站病院内に移譲せり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百三十三師団野戦病院第二半部略歴

陸軍々医大尉　行　泉　弘　道

年月日	概要
	部隊行動の概要
昭二〇、三、一	第百三十三師団戦病院は軍令に依り中支那浙江省杭縣杭州に於て編成完結爾後杭州に位置し駐屯部隊の患者収療に従事しありしが終戦後師団は中国側より喜善、嘉善附近に集中を命ぜられるや師団長命により野戦病院長は第二半部の編成を命ぜられ第九十九旅団長の指揮下に入らしめられたり爾後に於ける部隊（第二半部）行動の概要左の如し
一〇、九	集中地移駐のため杭州出発
一〇、一〇	集中地嘉善縣千窟到着
一〇、二〇	野戦病院開設
自二〇、一〇、二〇 至二、三、三	第九十九旅団同部屬部隊の患者収療
二、三、三	内地帰還のため千窟鎮出発並に上海到着
二、二九	上海港出帆

3034

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四、二、博多港上陸

行動日時

自三〇、一〇、九
至三一、四、

人員区分及異動の状況

第二半部長	陸軍々医大尉 石原弘道	将校	軍医	一	生徒	一	
下士官		兵科	主計	一	生徒	二	
			獣医	一			
兵		兵科	生徒	一九		八	
				二三			
計				五八			

行動間人員の異動なし

戦時名簿処理状況

本隊と分離する際人員に応ずる戦時名簿数を一括交付を受け其の後紛失せるものなし

輸送間に於ける事故　無し

3035

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百三十三師団病馬廠　略歴

年月日	概要
	編成
	昭和二十年軍令陸甲第一八号に拠り第百三十三師団臨時編成下令され第百三十三師団編成のため第七十師団より要員として陸軍獣医中尉井上国明以下八七名を以て中支那浙江省杭縣杭州市に於て臨時編成を完結す
昭二〇、二、二八	隊長代理　陸軍獣医中尉　井上国明
	転入
六、一〇	左の通り編入す 第百三十三師団輜重隊附 陸軍獣医大尉　吉良幸逸 補第百三十三師団病長廠長 部隊行動
	部隊は編成以来我南鉄北地区の警備に戦闘に従事すると共に杭州に位置し師団

3036

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

編成当初の繁雑なる業務病馬収療獣医資材の補給獣部下士官候補者、蹄鉄術修業及の集合教育並に獣医配属無き部隊の診療に任じ師団戦闘力発揮に盡力せり

昭三〇、三、二二	侍従武官御差遣
	侍従武官御差遣あらせられ優渥なる聖旨令旨並に御下賜品を賜う。
八、一五	転出
	第百三十三師団病馬廠附陸軍獣医中尉井上国明第百三十三師団司令部付
	停戦
八、一五	大東亜戦争停戦の大命に基き一切の戦闘行動を停止す
	矢暮馬並に軍需品の譲渡
九、一〇	支那派遣軍の無條件降伏に伴い
九、一六	以降矢暮、馬並に軍需品の中国側譲渡を実施する
	駐屯地の移動
	各種譲渡品の授受を終了し日本軍集中の為
一〇、一〇	中支浙江省嘉善縣西塘鎮に移駐
	復員業務に任ず
	転入
一〇、一三	左の通転入す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	第百三十三師団司令部付
	陸軍獣医大尉　井上国明
	同　陸軍獣医中尉　福田光男
	補第百三十三師団病馬廠付
	集中地の移動
三、三、二二	内地帰還のため上海に集結
三、二九	上海港出発
四、一	内地佐世保港上陸
	復員完結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第六十二旅団司令部略歴

陸軍少将　長嶺喜一

年月日	概要
昭一九、	軍令陸甲第八十一号に因り独立混成第六十二旅団臨時編成下令
	旅団長　陸軍少将　従五位勲三等功四級　長嶺喜一
七、一四	編成第一日
七、一七	編成完結
七、二五	門司港出発
七、二六	釜山港上陸
八、一	満支国境（山海関）通過
八、五	中華民国江蘇省上海到着
九、二三	浙閩作戦の為上海港出帆
自　九、二三	浙閩作戦
至　一〇、一〇	
	爾後福建省馬尾附近に在りて警備並陣地構築
昭二〇、二、一	軍令陸甲第一八号に因り独立混成第六十二旅団臨時編成（編成改正）下令

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
二、二五	編成完結
至 五、一四	福建省馬尾附近に於ける營舎並作戰準備
五、一五	集号作戰の為福建省馬尾出発
七、一四	江蘇省松江到着
自 七、一七	江蘇省松江附近の陣地構築及警備
至 八、一三	
八、一四	停戰に関する詔書奏発
	同日戰闘行動停止駐屯地附近に於て待命
八、一八	軍令陸甲第一六号に依り復員下令
二、二五	旅団長江蘇省松江驛に於て神気衝心症に依り死亡入
二、二八	旅団長代行 陸軍少将（既五位勲三等） 安藤忠雄 着任
昭二、一、二九	帰還為上海集結
三、二〇	上海出発
三、二〇	旅団長以下二六六名上海残留部隊、一切、陸軍大附 住吉貞一郎以下三百名
	内地帰還のため海防艦生野に乗船
三、二二	佐世保上陸
	残務整理者左記者を除き召集解除
	左記

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

陸軍大尉　庄吉　貞一郎（三、四、一五　復員本部に転属）
陸軍曹長　所　属　義　高（三、四、六　現役除隊）
四、五　旅団長代行　陸軍少将　安　藤　忠　雄
独立混成第六二旅団長代行を免ぜられ第六十旅団参謀長に復帰せしめらる
但し　独混六二旅団の復員業務取扱を命ぜられ
四、三　旅団司令部全部（陸軍少佐　濱井藤市指揮）
海防艦巻美に乗船　上海出帆
四、九　左世保上陸
同日残務整理者左記の者を除く除隊召集解除
復員完結　左記
陸軍大尉　荒　時　次　郎
同少尉　岩　崎　文　雄
同軍曹　松　本　敏　美

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第四百十大隊略歴

陸軍大尉　杉岡　茂

年月日	概要
昭一九、七、一三	軍令陸甲第八一号に拠り独立歩兵第四百十大隊臨時編成下令
七、一七	編成完結（編成人員大隊長以下八〇三名） 大隊長　陸軍大尉　杉岡　茂 副官　陸軍少尉　佐野正太郎
七、二五	門司港出発
七、二九	安東通過
七、三一	山海関通過
八、四	上海に到着
	呉淞に駐留次期作戦準備並に訓練
九、二三	浙閩作戦（福州攻略戦）に参加の為呉淞港出発
一〇、一〇	福建省長乗に入城同地に駐屯陣地構築並に警備
二〇、二、二五	軍令陸甲第一八号に拠り独立歩兵第四百十大隊編成改編（編成定員大隊長以下一三五八名）
五、一五	集号作戦参加の為福建省長乗出発

3042

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

七、一七	江蘇省松江に到着
	同地に駐屯陣地構築並に警備
八、一四	停戦に関する詔書渙発
	同日停戦駐屯地附近に於て待命
八、八	軍令陸甲第一六号拠り復員下令
三、二、八	内地帰還の為上海港出発
二、二	博多港上陸
	上陸人員　大隊長　陸軍少佐　杉岡　茂　以下九八一名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第四百十一大隊　略歴

陸軍少佐　松田良之助

年月日	概要
昭元、七、一四	軍令陸甲第八十一号に依り独立混成第六十二旅団臨時編成下令
七、七	香川県丸亀市歩兵第百十二連隊補充隊に於て編成着手
七、二二	編成完結（編成人員隊長以下八一〇名）本部、四ヶ中隊
七、二六	中支に向い丸亀出発
七、三一	益山上陸
	山海関通過支那派遣軍の隷下に入り第十三軍の戦闘序列に入らしめる
	上海集結福州に向う
九、二二	装備完成と海上輸送準備並に上陸作戦訓練実施
	上海出帆
自九、九、二七	福建省連江県百勝附近に上陸
	爾後戦闘を実施しつつ福建省長乗県福門に到り同地附近に在りて陣地構築並に警備（含討伐戦闘）教育訓練に邁進す
至二〇、二、一四	
一九、一、二〇	昭一九、六、六入隊矢　百四十名到着す
二〇、二、一	軍令陸甲第一八号に依り独立混成第六二旅団改編下令

3044

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

二、八	昭一九年度現役兵　二百五十七名到着す
二、二五	改編完結（編成人員　隊長以下一二五八名）
	左記部隊を新に編成す
	機関銃中隊　一
	歩兵砲中隊　一
	通信中隊　一
自　二、二五	福建省長乗県龍門附近に在りて引続き陣地構築警備並に教育訓練に従事
至　五、一四	
自　五、一五	集号作戦（福州撤退作戦）に参加
至　七、一六	
自　七、一七	江蘇省松江県莘荘附近に在りて光号作戦準備
至　八、一四	及同地附近の警備
八、一四	停戦に関する詔書渙発
	同日戦闘行動停止駐屯地附近に於て待命
八、一八	軍令陸甲第一六号に依り復員下令
九、二四	中国軍に武器譲渡
自　二〇、八、二〇	駐屯地に在りて国家再建自家復興のための教育実施
至　二一、一、二八	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭三、一、二七	上海集結のため松江県華荘出発
同日	上海着
自二、二一三	四梯団に分れ上海出帆
至二、二五	
自二、二五	四梯団に分れ博多港上陸
至二、二八	同日復員式完了
	（上陸人員　大隊長　陸軍少佐　松田良之助　以下一〇〇〇名）
	将校二七名　准士官二名、下士官九四名　兵八七七名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第四百十二大隊　略歴

陸軍少佐　杉本力雄

年月日	概要
昭九、七、一三	軍令陸甲第八十一号に依り独立歩兵第四百十二大隊編成下令
七、七	編成完結
	大隊長　陸軍大尉　田所大二郎
	副官　陸軍中尉　松岡信夫
七、二五	門司港出発
七、二九	安東通過
七、三一	山海関通過
八、四	上海到着
	呉淞に駐留次期作戦準備並訓練
九、三	浙閩作戦（福州攻略戦に参加の為呉淞港出発）
一〇、四	福建省福川市街に入城同北方屏山附近に駐留
	同地附近の警備及陣地構築
二、二五	軍令陸甲第一八号に依り独立歩兵第四百十二大隊編成改編
四、二三	第十三軍司令部附　陸軍大尉　田所大二郎

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	隊長　陸軍大尉　上野七雄
五、一五	集号作戦参加の為福建省福州出発
七、一五	浙江省杭州に到着
八、三	て号作戦参加の為杭州出発
八、一四	停戦に関する詔書渙発
同日	停戦
八、二〇	浙江省嘉善県嘉善に移駐待命
八、八	軍令陸甲第一六号に拠り復員下令
二、五	補独立混成第六十三旅団司令部　陸軍大尉　上野七雄
	同　大隊長　同　杉本力雄
二、二、一三	内地帰還の為上海港出発
二、一五	鹿児島港上陸
	復員完結
	大隊長　陸軍少佐　杉本力雄
	副官　陸軍中尉　内山定

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

編成兵備改編一覧表

部隊行動

独立歩兵第四百十二大隊（通称号操第六四七〇部隊）

編成年月日	昭和一九年七月一七日
編成地	軍令陸甲第八一号に依り独立歩兵第四一二編成完結、高知県高知市歩兵第百四十四聯隊補充隊
兵備改編	昭和二〇年二月二五日 軍令陸甲第一八号に依り独立歩兵第四一二大隊編成完結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第四百十四大隊　略歴

陸軍少佐　平出五平

年月日	概要
昭一九、七、一三	軍令陸甲第八一号に依り独立歩兵第四百十四大隊編成下令
七、一七	編成完結 大隊長　陸軍大尉　長尾熙 副官　陸軍少尉　乾寿夫
七、二六	門司港出帆
七、三一	安東通過
八、二	山海関通過
八、六	上海到着
	同地に駐留次期作戦準備並訓練
九、二三	浙閩作戦（福州攻略戦）に参加の為呉淞港出発
一〇、三	浙閩作戦中福州北方半浮附近の戦斗に於て大隊長　長尾大尉戦死 大隊長代理　陸軍大尉　林長栄
一〇、一〇	福建省福州市に入城・南台に駐留

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

三、一、一九	南台島の警備及陣地構築
三、三五	補大隊長　陸軍少佐　平出五平
五、一	軍令陸甲第一八号に依り独立歩兵第四百十四大隊編制改正命、副官代理　陸軍准尉　古澤邦雄
五、一五	集合演習参加の為　福建省　福州市出発
七、一七	浙江省　松江に到着
	同地附近の陣地構築並警備
八、一四	停戦に関する詔書渙発
同日	停戦
	駐留地に於て待命
八、一八	軍令陸甲第一六号に依り復員下令
三、二	副官　陸軍准尉　古澤邦雄
三、一、三〇	内地帰還の為　松江出発
一、三一	上海着
三、二	乗船上海港出発
三、七	博多港上陸
	復員完結
	大隊長　陸軍少佐　平出五平
	副官　陸軍准尉　古澤邦雄

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
自昭九、八、六 至九、三	固有部隊名　独立歩兵第四百十四大隊編成、兵備改編 通称号　操第六四七二部隊　部隊行動　一覧表 編成年月日　昭和十九年七月十七日 編成地　徳島県　徳島市 編成（編制改正）　昭和二十年二月二十五日 概要　軍令陸甲第八一号に依り独歩四一四大隊編成完結 軍令陸甲第一八号に依り独歩四一四大隊編成 改正 編成兵備改編 渡支年月日　昭和十九年八月六日　上海着 渡支当初駐屯地　福建省　福州市　南台 行動概要 上海に於て教育訓練並対戦準備

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自 九、三三	浙閩作戦（福州攻略戦）に参加
至 一〇、一〇	
自 一〇、二	南台島の警備並に陣地構築
至 二〇、五、一四	
自 五、一五	集合作戦に参加
至 七、二七	
自 七、一八	松江附近の陣地構築並に警備
至 八、一三	
自 八、一四	唐戦の為、松江に於て待命
至 三、一、三〇	
一、三	内地帰還の為上海に集結
三、二	乗船上海出発
三、七	博多港上陸

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp